

飯舘 百景

ドンニヤイ村との交流

1月下旬、飯舘村がホストタウンを務めるラオスのドンニヤイ村から、中等学校に通う3人の生徒が、関係者と共に村を訪れました。村が、村の子ども達と共に、校舎の建設支援金を贈ったことがきっかけとなり、同村とは、長く交流が続いています。震災時にはドンニヤイ村の皆さんから励まされ、心のこもったお見舞いをいただきました。

飯舘中学校は、ふるさと学習の一環で行う「ホストタウン・プロジェクト」の活動を生かして歓迎し、一緒にTシャツの製作や、英語の授業にも取り組みました。生徒の一人、ソムサイ・アサさんは、「ここに来ることが夢でした。次は自分の力で来れるよう勉強を続けたい」と語っていました。また一行は、平成24年から同校への支援を続ける伊藤美智子

さん(前田)の自宅も訪問。「スポーツコートや照明器具が整い、教育環境の充実が図れています」と感謝を伝えました。伊藤さんは手作りの料理で歓待し、「自分も何か貢献できたらと思います。500円貯金を続けて毎年の寄付を行っています。亡き夫も同じ考え方の方のほずすから」と思いを伝えていました。

互いのふるさとのこと、学校のことを伝え合いました。ドンニヤイ村の生徒達は、農業や家事を手伝いながら、家族が助け合って暮らしている様子も紹介しました。

さまざまな活動を共にした飯舘中学校の生徒達は「ラオスの人のあたたかさを感じた」「言葉が分からなくても通じ合えると感じた。これからも交流を続けたい」と話していました。



伊藤さんのお宅での様子

「口に合うかどうか分からないけど」。蒸しパンやおこわなど、手作りの料理がたくさん準備されていました。ラオスの皆さんは、たいそう気に入った様子で、あっという間に完食！「これはどうかな」と伊藤さんが持って来る料理を、次から次に完食！完食！本来の目的を忘れてしまわないか心配する程の勢いでしたが、思いを伝える際には、一人ひとりが伊藤さんと抱き合い、心からの感謝を伝えていました。

